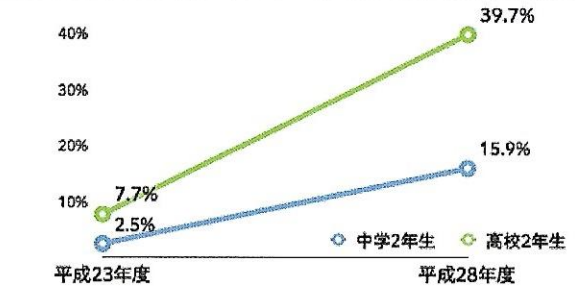
糸島市では「家読（うちどく）」を推進しています。

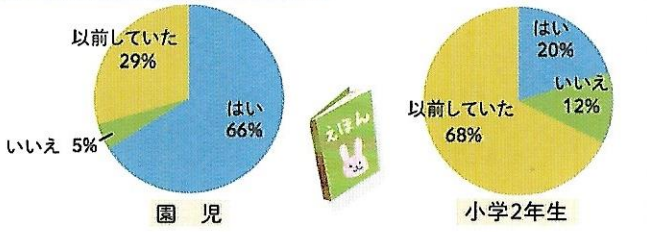
平成29年10月「第2次糸島市子ども読書活動推進計画」が施行されました。その中で、5年前に実施したアンケート調査と比べ、①中学生・高校生の不読率（1ヵ月に1冊も本を読まない）が3倍近くになったこと、②小学校低学年の保護者で「以前は読み聞かせをしていたが今はしていない」人が増えたこと（図書館では、小学校2年生くらいまでは読み聞かせをしてあげることを勧めています）、③「もっと親子で読書を楽しむことができれば、子ども達はもっと本を読むようになる」と考えている保護者が多いこと、などが示されました。

これらのことを受けて、糸島市では、保育園・幼稚園・学校・図書館の他、家庭での読書、とりわけ家族みんなで取り組む「家読（うちどく）」を推進しています。

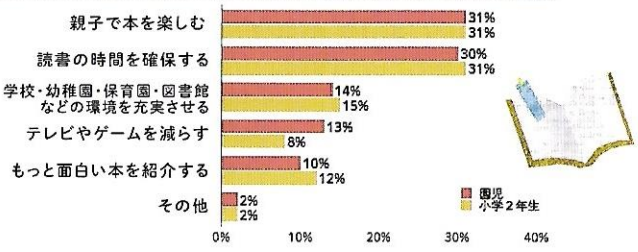
① 中学・高校生の不読率（1ヵ月に1冊も本を読まない）



② 読み聞かせ等をしている （3～6歳児・小学2年生保護者アンケート）



③ どうすればもっと本を読むと思うか（複数回答）



わたしの読んだ本の記録

読んだ日	月	日	ようび
読んだ本			
感想・思ったことなど			

読んだ日	月	日	ようび
読んだ本			
感想・思ったことなど			

読んだ日	月	日	ようび
読んだ本			
感想・思ったことなど			

※ 糸島市立図書館では読書手帳を販売しています。ご利用下さい。

うちでも「家読（うちどく）」やってみよ！



編集・発行：糸島市立図書館
発行年月日：平成３０年３月１日

※ このリーフレットは平成29年度福岡県「子どもの読書活動充実事業」の補助金で作成されています。

家読（うちどく）ってなあに？

「家読（うちどく）」とは、「家庭読書」の略です。保育園・幼稚園・図書館でする読書ではなく、おうちで本を読む・親子でいっしょに読書を楽しむ・家族みんなで読書をすることです。また、読書を通して家族の会話が広がることも目的としています。



Q. どんなふうにすればいいの？

特に決まりはありません。やり方は自由です。
家族みんなでルールを決めましょう！
例えば…

1 「家読」の日や時間を決めて、その日・その時間は家族みんなが本を読む。



【ポイント】
その日・その時間は、テレビ・ゲーム・スマホはちょっとお休み。

2 同じ本を家族みんなで読む。

【ポイント】
親が子へ、子が親へと交替で読み聞かせをする。順番に音読していく。

3 家族で読んだ本の記録をとっていく。「家族の記録ノート」を作る。



【ポイント】
誰が、どんな本をいつ読んだかを記録する。読んだ感想も書き込む。

4 家族みんなが「読書手帳」を活用する。



【ポイント】
一人一人おうちで読んだ本を記録していく。個人の記録を残す。

※ 読書手帳は、糸島市立図書館で販売しています。

Q. 家読（うちどく）の効果は？

家庭での読書習慣を身につけることができます。

子どもの頃の読書活動が多いほど、「未来志向」「社会性」「自己肯定」「意欲・関心」「文化的作法・教養」「市民性」「論理的思考」のすべてにおいて意識・能力が高いという結果が出ています。読書は人生を豊かにしてくれます。

（国立青少年教育振興機構「子どもの読書活動と人材育成に関する調査研究」報告）

家族の会話が広がります。

同じ思いや、楽しく幸せな時間を共有することで、心の安定が図られます。また、会話が弾み、それぞれの考えや思いを知ることで心のつながりも強くなります。



電子メディアからの影響を抑えます。

子どもに対する様々なメディアの影響はとても深刻です。テレビ・ゲーム・スマホから一旦離れることだけでなく、それに費やしていた時間をどう過ごすかが大切です。

